

大事な場面で人に会うのは緊張するものです。商談、面接、初めてのデートとか。こんなとき、役に立つのが「雑談力」です。私はこれを長年のインタビュール験の中で覚えました。日常の小さな発見や感動を言葉に置きかえる練習が役立つとす。大切なのは表現力とともに「感動力」を失わないことです。

例えば、こんなことがあります。インタビュー1番組のスタッフと3人で、北鎌倉を訪ねたときのことです。約束より早く着きそつなので、タクシーを手前とめて、歩

雑談力は、感動力

フリーランスアナウンサー 今尾ひな子

きながらお宅を探すこと息子が建築家でした、にしました。目安をつけ何人かの友人も、意外性た辺りの家の表札を一軒に驚いておりましたよ」

ずつ見ていきました。しと。「しかし、私が好きでかし思いがけなく手間取よく描く、鎧よろいや甲冑かぶとはり、なかなか見つけることができませんでした。

探していたのは日本画の守屋多々志先生のご自宅。高松塚古墳壁画の再現や模写、歴史画や武者絵など描かれる作品のイメージも手伝って、たっぷり日本風の建物とばかり考えてお宅を目指して置いたとしても光ります。

置いたとしても光ります。良いものはどこに置いても、同じことが言えるでしょうね」

話はいつの間にか、本題に入っているのです。雑談力は大事です。そこ

お会いして、まずこの本質が含まれることも話をすると「実は、私の少なくともいからです。

